

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

1. 教育学部・教育学研究科

研究 1-1

教育学部・教育学研究科

I	研究水準		研究 1-2
II	質の向上度		研究 1-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、著書・論文等の研究業績数は、年平均 282 件、学会等における研究発表数は、年平均 164 件である。研究資金の獲得状況について、科学研究費補助金の年度別交付状況は平成 15 年度以前からの継続分も含めて平成 16 年度 33 件、交付金 6,250 万円、平成 17 年度 34 件、交付金 6,428 万円、平成 18 年度 30 件、交付金 5,528 万円、平成 19 年度 38 件、交付金 8,194 万円であり、年度平均の交付数は 33.8 件、交付金 6,000 万円である。研究種目別では基盤研究 (C)が 100 件(74.0%)を占めている。その他の外部資金の獲得状況としては、科学技術振興機構の平成 19 年度科学技術理解推進事業における採択があるなど、相応な成果がある。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、教育学部・教育学研究科において、教育・心理、特別支援教育をはじめ、人文・社会、自然さらに保健・体育、芸術の各分野で相応の優れた成果を上げている。学術面は、人文・社会科学系では学会誌掲載、書評誌での高い評価、学会賞

受賞、奨励助成による出版等の業績があり、また、自然科学系では米国化学会誌・英国化学会誌に毎年それぞれの研究成果が掲載されている化学分野の研究の業績があり、当該分野において優れた水準にある。社会、経済、文化面では、例えば、学会から評価され学会選考プレスリリースに選定されるとともに科学記者クラブで発表や、全国紙で紹介された業績があり、関係団体から評価され招待講演を行っている。さらに、研究概要が全国紙に掲載されたり科学研究費公開促進学術図書に選定された業績、外国学会誌に翻訳を添えて掲載されるとともに科学研究費（基盤 B）の補助を受けて各国研究者と共同研究を進めている業績等、社会、経済、文化への貢献が優秀であると判断される。全体として、過去4年間の研究成果により学会学術賞20件を受賞しているなどの優れた成果がある。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成16～19年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「高い質（水準）を維持している」と判断された事例が3件、「相応に改善、向上している」と判断された事例が2件であった。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間終了時における判定として確定する。

